

遊びは自然の中 本と作文が大切

金森式オランダでも注目

北陸学院大の金森俊明教授(左)「野々市市」が今秋、オランダの教育団体から招かれ連続講演をした。回国にも教育の悩みがあり、自然や人間性を多く取り入れた金森式教育が注目されたようだ。(今宮久志)

現地で教育講演 反響大きく

オランダの教育は、個性を打開するため手掛かりに夕でも広く知られている。や学び合いを大切にするとしょうとしたのが、金森さん。九月下旬の十二日間でア紹介されていたが、近年は、んの授業を撮ったNHK制ムスデルダムやロッテルダム、ハーグなど十五都市を巡り、一般向けに十七回の講演のほか授業を三回、視察・懇談四回などと多忙を極めた。どこも盛況で、会場では同ドキュメンタリーも上映。さらに「手が届いた世界」と題して、多くの人がかかわって子どもは言、など持論を語った。

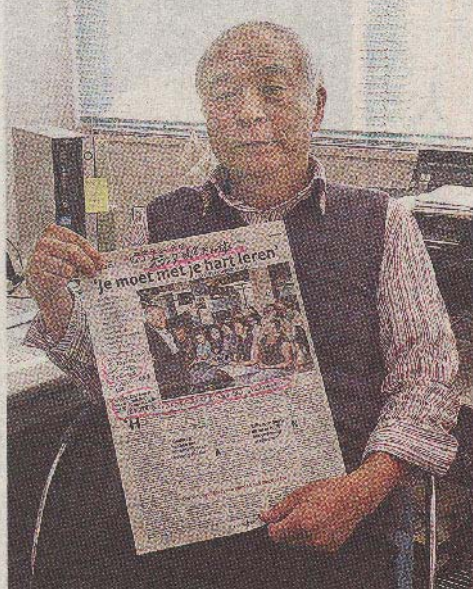
金森さんへの質問で多かったのは、自らの教育観はどう築いたのかだった。これに対して「少年期に農作業の手伝いをし、父の仕事

「人間関係は日本より豊か」

ぶり、自然の中で遊んだこと、また文学書を読み生活綴方教育を学んだことなどが影響している」と答えた。教育現場に立つ人からは「明日から教室で何ができるか」との質問もあった。これには「子どもが持っている手紙を読み取る力、彼らの話を聞く力、そこから表情やしぐさ、気持ちを読み取ってほしい」とも答えたという。

その一方で意外な面も見えた。オランダの教育現場では、教師が子どもにも触れることに抵抗が出てきている。保護者も過敏に感じているそだ。教育的指導に立っていた大人が、子どもを虐待した事件以来だという。

多くのオランダ人と話して、オランダの方が豊かな人間関係で生きていると思っただという金森さん。「日本は他者から必要とされている、支えられている、と感じていないと実感した」と話している。



オランダでの講演の模様を掲載した新聞を手に語る金森さん(左)北陸学院大で